

巨乳女子校生悠菜さんの妄想自慰にききみみを立てて見たら、凄いエロかつた件

ボイス版シナリオ

サンプル版 第一章 「クラスメイトに輪●されて」 1—2だけお楽しみいただけます。





「ひぐうううううつ！……うぐうつ……んああつ……あぐり、くううひ、うううううんつ……！」

激痛がお尻の穴から背筋を通つて全身に広がる。

【悠菜】
「痛いっ、痛いっ！ ああっ！ ま、まさかっ、ああああっ……」

お尻に感じる激しい異物感の痛みに堪えながら後ろを見ると、

私の尻の穴に太い肉棒が挿し込まれていた。

抜いてえええつ！！ あつ……！ くつ、うううんつ！！ くふうん……！」

【男子生徒D】 「かああつ、これはすげえ……引きちぎられそうだつ！」

【悠菜】 「あつ、ああつ……くう……私、お尻にいいし……ああつ！ ぬ、抜いてえ、抜いてください……お願いしますう……くつ、んああ……！」

懇願しながら周囲を見ると、男子たちは全員服を脱ぎ捨てていて、誰もがいきり狂つたペニスを私の眼前に突き出していた。

気付けば、私もいつのまにか上半身を裸にされており——

【悠菜】 「はぐうつ！ んああつ！ ああつ！ はあつ！ おつ、おううつ、くつ、おええ……はああつ！ くあああつ……！」

いきなり、お尻の中を抉られる感覚に嗚咽の声が口から出でくる。

【悠菜】 「うつくうつ！ あぐうつ！ んつ！ ああつ！ あつ！ あつ！ あつくう

……ふわあつ、ああつ！ んああつ……！」

だけど、お尻の中を抉られる激痛さえも徐々に快感へと変わり……
あたしの口からは次第に喘ぎ声が洩れていっていた。

【悠菜】

「はああんっ！ あんっ！ ああっ！ だめえ、お尻でえつ、私いつ！

はあっ、あんっ！ ああああっ！ んっ！ んああっ！ はああんっ！」

【男子生徒F】

「すげえ、悠菜ちゃんお尻でも感じ始めたぜ……み、見ろよ、このだらしない顔

……俺っ、こんなAVみたいなの生で見るの初めてだ……我慢できねえよ」

そう1人が口にすると、他の男子も口々に感想を洩らしながら自らのペニスを握り始める。

みな目を血走らせながら私の痴態をガン見し、ペニスを必死に擦っていく……

嗚呼、この光景、なんか、すごい……。

【悠菜】

「はああんっ！ あんっ！ あっ！ あっ！ あああっ！ あふうっ！

んんうっ！ あっ！ あああっ！」

思考が麻痺してきているのを自覚しながらも、私はそれに抗うこともせず、男子たちのペニスを見つめながら自ら快感の声を上げる。

【悠菜】

「もおおだめえっ……！ はあっ！ ああっ！ 私、もう……変態になっちゃううつ！ でもおっ！ でもでもおっ！ いいのおっ！ 気持ちいいのおっ！」

お尻の中の痛みはすでに快感へと変わり、私は自分の意志でこの悦楽に耽っていく……。

【悠菜】

「ふわあっ！ あああっ！ アナルう、気持ちいいですうっ！ はあっ！」

あああんっ、腸を擦られるとお、ゾクゾクしてえっ！ 快感、感じますうっ！」

【男子生徒A】

「それだけじゃないよね？」

どこからともなく私を言葉で虐める彼の声が聞こえてくる。私はそれに反射的に口を開いた。

【悠菜】 「はいっ、そうですうつ！ あつ！ ああつ！ 恥ずかしいところ見られてえ、それが、すごく気持ちいいですうつ！ んんうああああつ……！」

【悠菜】
「ほんとはいいつもいつもおつ！ 男子たちに見られながらあつ、はあつ！」

ほんとはいつもいつもおつ！ 男子たちに見られながらあつ、はあつ！
ああつ！ 犯され、ないかってえ、んんつ、期待、してましたあつ……！」

ひううんうつ！ んんつ！ あつ！ ああつ！ はあんつ！ お尻いつ、あああつ！ 気持ち、いいですうつ！ ああんつ！ はあつ！ あああつ！

奥の奥までペニスが入り込み、腸の中をカリが引っ搔いて出口付近まで戻る。その引っ搔きが、私のアナルを最高潮に悦ばせる。

【 悠 菜 】
「 は あ つ 、 あ あ あ ん つ ！ だ め え つ ！ も う イ ツ ち や う う つ ！ ア ナ ル 、

【男子生徒D】 「へうつ、き、きつうつ……！ で、出るつ……！」

「悠菜」
…………！
「ふわあああああっ！！！
ああっ！ あっ……！
ああああああああああああああああ

お尻の中に射精されると同時に、私も絶頂を迎えた。

【男子生徒F】「ああっ、俺も……！」

【悠菜】
「いやああつ！ か、顔にいつ……ううつ、うう……」

【男子生徒G】
「俺もつ、うううつ！」

【悠菜】
——あああ～！
熱い～、熱い精液い～ふわあ～、あああ～】

【悠菜】
——はああんつ！
かけてええつ、もーと私にサーメンたくさんかけてえええ……

ふわあつ、あああああ……」

【悠菜】

「ああっ、あああっ……いい、いっぱい、白いの、いっぱい、私にい
……んあ、ああ……匂いも、すゞいい……」

嗚呼……お尻に広がる精液の感触……それに、身体中に感じる、熱い粘液……私の身体、悦んでる……。

【悠菜】

「ああっ、臭い……精液の匂いが、私から、してるう……」

全身から立ち込める精液の独特的な匂いに、絶頂も相俟つてぼんやりしてくる。

【男子生徒I】 「俺たちにもかけさせろっ」

まだ後ろに控えていた男子たちが、突然私の顔前にペニスを突き出してきた。

【悠菜】 「嗚呼……男のアレが……ペニスが、いっぱい……」

【男子生徒J】 「悠菜ちゃんつ、口開けてつ、舌も出してつ」

【悠菜】 「は、はい……んああ……」

私は男子の言われたとおりに舌を突き出す。嗚呼つ、もしかして、もしかして、口に精液をお……。

【悠菜】 「ああああ、あつ、あああ……あふい……舌に、せえへきはあ……」

私の望み通り、男子たちの熱い精液が口の中に掛けられる。

【悠菜】 「ふわあつ、んあああ、顔にも、精液があ、いっぱい……」

【男子生徒K】 「ほらつ、飲んでみてよ、俺たちの精液を」

【悠菜】 「は、はい……」

【悠菜】 「んつ、んぐう……」

口を閉じて、舌の上に出された精液を味わいながら、少しづつ飲み込んでいく。
そして、ゆっくりと口を開いた。

【悠菜】

「あああ～……へんぶ、のひまひはあ……あふうて、ふはふへ、ほいいの、
へんぶう……あつ、ああ……」

【男子生徒たち】

「おおお～～～～！」

私にペニスを突き出している男子たちが軽く歎声を上げる。

その声になんだか嬉しさを覚えてしまう。男を悦ばせることができたことに、心が弾む。

【悠菜】

「ふふ～、うふふ～……」

私……男子たちの精液飲んで、悦んで……それを見られてることが、気持ち、いい……。

【男子生徒C】 「か、か、か、神崎さん～、お、おっぱい、弄つてもいい？」

ちよつと前まで私の胸を揉みしだいていた彼が、ギンギンに膨らませたペニスを近づいてくる。

【悠菜】 「え、えええ、いいわよ……好きにしても……」

なぜか彼を見ると、顔が綻んでしまう。これって母性本能とでも言うのかしら……？
きつとこれも、男を悦ばせているから覚える快感の一種なのね……。

【男子生徒C】 「んちゅつ、ちゅう……おっぱい……神崎さんの、おっぱい……ちゅつ、うう……」

【悠菜】 「ああっ、いいいっ、もっと、もっと舐めてえ……ふうんっ、んあっ！」

「あっ……！ ああああ……」

舐められ、指で弄られ、私の乳首がさらに肥大化していく。それになにより……。

【悠菜】 「あんっ、ああっ……乳首、ジンジンしてえ、気持ちいい……！」

「もつと乳首弄つてえ、舐めてえ、はあっ、あああんっ……！」

「ああっ、神崎さんっ……ちゅるっ、ちゅつ、うう、れろれろ、ちゅうっ、んう……！」

【男子生徒C】

彼は執拗にミルクをねだる赤ん坊のように私の乳首を舐め回してきた。

【悠菜】

「ああんっ！　いいよっ、いいいっ……そのまま乳首舐めてえ、

私の大きなおっぱい、虐めてえ……はあんっ、あっ、ああん……」

私も子どもをあやすように声を掛け、勃起した乳首を好きにさせる。

こうやつて甘えられるのも、なんだか心地いい。私、なんでも感じてしまう、淫乱な女なんだわ……。

【悠菜】

「はあっ！　あっ、んああ……ダメええ、気持ちいい……私、おっぱいで、

イカされちゃいそう……」

でも、やつぱり……オマ○コに欲しいい……乳首もアナルもいいけど、オマ○コに欲しいい……
疼いてるの お……。

【男子生徒A】

「さてと、僕もそろそろ神崎さんを味わわせてもらおうかな」

【男子生徒E】

「だったら、俺は今度は尻を使わせてもらうか」

ああっ、そんなあ、それって2人同時つてことおつ……嗚呼つ、どれだけ気持ちよくなれるのおつ……。

【悠菜】

「はああああああつ！！ あぐつ！ うつ、んんううつ……！」

私が期待で胸を膨らましていると、オマ○コとアナル両方に硬いペニスが同時にずぶりと入つてきた。

【悠菜】

「す、すごいいつ！ これすごいいく……！ お腹の中でえ、

二つのペニスがごりごりしてるうう……んあああんつ！」

【男子生徒E】

「おいおい、まだ教えたりねえのか？ 嘰り方教えただろ？ ジヤねえと動かねえぞ」

【悠菜】

「す、すいません……オマ○コもアナルも、ペニスで何度も擦つてください……お願いしますう」

……！ 私のエツチな穴で気持ちよくなつてください……お願いしますう」

【男子生徒A】

「ふふっ、正直になつたね神崎さん。そう言いながらオマ○コの中がうねつてゐよ。まつたく、こんなことされてるつてのにね」

【悠菜】

「は、はいっ……私は、ドMの淫乱女ですう……だから、もつと虐めてください……」

【男子生徒A】

「仕方ないなあ、じやあその分、分かつてゐよね？」

【悠菜】

「は、はいっ！ 分かつてますうつ！ たくさん気持ちよくさせて
いただきますううつ……！」

【男子生徒E】

「じやあつ、本当にそうできるか見せてもらおうかつ！」

【悠菜】

「はああああああんっ！ お尻いいつ……！ んああっ！ あぐうつ、んんうつ！」

き、来たあ、乱暴なペニスがお尻の穴広げてるううう……！ 擦つてるう！

【男子生徒A】

「さて、僕も……たくさん喘いで、だらしない顔をみんなに見てもらうんだよつ」

【悠菜】

「はいっ！ 分かりましたあつ！ あああっ！ はううつ、んっ！ ああっ！

あつ！ あんっ！ あああっ！」

【悠菜】

「ああっ！ はあっ！ あっ！ あああんっ！ 気持ちいいっ！

気持ちいいですうつ！」

【男子生徒C】

「ああっ、俺も……」

胸をたくさん虐めてくれた彼が、今にも爆発しそうなペニスを私の目の前に持ってくる。

【悠菜】

「いいわよっ、舐めてあげる……ちゅうっ、ちゅっ、んう……

ちゅるっ、んんっ！ ああっ！ お腹もお、ごりごりいゝ……んあああんっ！

【男子生徒E】

「おいっ、自分が良くなつてんじやねえよっ！」

【悠菜】

「す、すいませんっ……んっ、くふうんっ！ あああっ！ どおっ、ですかあっ！」

ああっ！ 気持ち、いいですかあっ！」

【男子生徒E】

「ああ、その調子だっ……！ 穴が閉まつていい感じだぜっ、
中もトロトロで最高だっ！」

【悠菜】

「は、はいいつ！ ありがとうございますうつ！ あああつ！ んつ、くう……」

私のオマ○コはあ、どう、ですかあつ！ ああつ！ んああんつ！」

【男子生徒A】

「いいよ、神崎さんつ、そのままオマ○コの奥のほうに力を入れてつ」

【悠菜】

「分かりましたあつ！ あああつ！ ふわあつ、あつ！ ああつ！ はああんつ！

あつ！ あああつ！」

【悠菜】

「ふうつ！ あつ！ 目の前の、ペニスもおつ……んつ、んちゅつ！

ちゅうつ、んあああつ……ちゅつ、ちゅ。ふつ……んあああ……！」

【悠菜】

「はあつ！ あつ、んんうつ、ちゅぱつ、ちゅうつ！ じゆるうつ、んつ、んああ……はあつ！ あつ！ あああつ！ あつ、んあああああつ！」

嗚呼、私、男子たちに命令されてめちゃくちゃにされてる。

しかもそれをたくさんの中の男子に見られてるつ……。

【悠菜】

「はああんっ！ あっ！ あんっ！ んちゅうつ、ちゅあつ、はああっ！ んつ、うううんっ！ ちゅうつ！ んうつ、んああつ！ ちゅうつ！ ああっ！」

教室中に私の声が響いてつ……それに男子たちの荒い息遣いも聞こえるつ。

いつも学校で望んでいたことが叶つてる。

私のいやらしい身体を、淫らに乱れてる姿をみんなに見られてる。

【悠菜】

「ああっ！ あんっ！ 最高おつ！ 私はあつ、んんうつ……

これを待つてたのおつ！ あああっ！ 亂暴にい、レイプされることお、待つてたのおつ！」

【悠菜】

「はあああっ！ もつとお！ もつと突いてくださいいいつ！ もつと犯してくださいいいつ！ はああっ！ あんっ！ あっ！ あああっ！」

【悠菜】

「はあんっ！ あんっ！ あんっ！ ああっ！ んんううっ、ちゅうっ、

ちゅぱあっ、ちゅううう……レロ、レロ……ふううんうつ、ああああっ……！」

【男子生徒C】

「あああっ、俺もう、ダメ……出ちやう……」

【男子生徒E】

「くう、俺も情けねえことに、もう出そうだ……おいつ、いいか？」

ダミ声の彼の言葉に、目の前でペニスをさらに大きくさせている彼が頷く。

【悠菜】

「はああっ！ 来るうつ！ 热い精液来るのおつ！ あああんっ！

「あああんっ！ あああんっ！ イクつ、イクうう……頭の中あつ、真っ白に

【悠菜】

してえつ！ あああっ！ 私い、飛んじやいそおつ！ あああっ！ んああ！」

【悠菜】

「はああっ！ あつ！ あつ！ ああああああああああああああんっ！！」

「ああああっ！ はあつ、あつ、ああああああ……熱いいつ、熱いいいつ……！」

【悠菜】

私の絶頂より少し遅く、お尻の中と顔に熱い精液がほとばしってくる。

【悠菜】

「はああっ……あっ……あっ……あっ、ああああん……ふわあっ、あああ……」

【男子生徒A】

「ほんと淫乱だね神崎さん。二穴同時に責められて自ら男のものを舐めて、しかも先にイッちゃうなんて」

【悠菜】

「はああ、はいい……オマ○コも、アナルも、犯されてえ、イッて、
しまいましたあ……はあっ、あああ……」

【男子生徒A】

「でも僕はまだ達していないんだ。このまま続けるからね」

奥付け

本体験版は□1—2だけお楽しみいただけます。

○収録内容について

第一章 「クラスメイトに輪姦されて」

- 01 23:44
- 02 14:56
- 03 08:25

第二章 「授業中一用務員に脅迫されて奉仕」

- 01 16:08
- 02 14:39
- 03 10:16

第三章 「通勤電車—スーツの男達に脅迫されて」

- 01 10:41
- 02 13:50
- 03 12:57

◇「」注意

「」の作品は18歳以上の成人を対象に作られています。

18歳未満の方の購入・閲覧は固くお断りしておりますので、「」へ承ください。
本作品を無断で配布、複製、転載する事を固く禁じます。

作品の御使用により生じたあらゆる損害等に關し、当サークルは一切の責任を負いかねます。

作品について何がありましたか、以降のメールアドレスまでお知らせください。
kaneyasuhan@gmail.com

pixivとTwitter、Cafeを開設しました

フォローリンクも嬉しいです。

PIXIV <https://www.pixiv.net/users/49967073>
Twitter <https://twitter.com/kaneyasuhan>
Cien <https://ci-en.dlsite.com/creator/5143>